

「自然・歴史・地域を守る砂留」

令和元年9月2日 堂々川ホタル同好会情報紙2019年度6号(創刊 176号)

1. 5番砂留川原に看板を立て「現在一咲いている花色各種」を掲示中ですが、今年は彼岸花の開花数を20万本、花色23色を期待しています。花を愛でる「見学だけが目的の人」の眼が不法投棄監視役となって、不法投棄防止に繋がり自然破壊を食い止め、自然維持に繋がっています。
2. 昨年、彼岸花を盗掘していた人がいたので「ホタル同好会と小学生が中心となり、一球一球植栽したものなので持ち帰らないでください」と言ったところ「自然の川原のものを持って帰ってなぜ悪い!」という困った人がいました。行政諸機関と連携を取って植えているのです。
3. 多くの人の無償の努力とこの地道な活動の意義を再認識して欲しいと願わずにはいられません。
4. 1番砂留脇の看板横へブロックの不法投棄。捨てた人の情報を集めています。(再発防止の為)
5. 9月19日JICA研修者来訪。9月27日瀬戸内海環境保全活動功労者賞の内示を貰っています
6. フォトで見る活動



8月13日2回目の夏水仙咲く



8月25日の定例会



除草剤を撒く 夕ボボトギ退治



1番砂留周辺草刈り



福山市にて処理済 不届き者調査



彼岸花を10、11月に咲かせる為の策



猪瓜坊も参加の? ごみ拾い!



彼岸花開花 今年6色目



今年も花色を掲示板に貼りだす

7.次回の定例会行事

○日時： ①令和元年9月15日(日) 8:00～ 集合 1番砂留東

・彼岸花植栽地の草刈り・砂留整備・ごみ拾い

・(10月20日と11月9日の砂留見学に彼岸花を見せたい)

*ホタルや花の堂々川情報はホタル同好会の推奨ブログ“自然を尋ねる人”に随時詳しく載せている。

ホームページのアドレス <http://hotarunokawa.web.fc2.com/>

ユーチューブで彼岸花の記事が見られます。ホームページを開く

堂々川ホタル同好会 発行責任者 土肥 携帯 090-2865-3486

堂々川になぜ大きな砂留ができた？

福山市内には江戸期に築造された数多くの砂留が存在しています。広島県では、「まさ土」と呼ばれる土壌が分布する地域が多く、もろく崩れやすいため、大雨の際は土砂災害が発生する危険性が高い場所が多くあります。その土砂災害を防ぐために、土砂を堰き止める役割を果たすのが「砂留」で、現在では砂防堰堤（砂防ダム）と呼ばれています。なお、江戸期の砂防堰堤（砂防ダム）に関しては福山市以外ではほとんど確認されていません。その中でも、堂々川六番砂留のように大規模なものも見られます。では、どうしてこれだけ大規模な砂留が築造されたのでしょうか？



左の写真は堂々川一番砂留です。この砂留について詳しく見ていきます。写真をよく見ると、積み方が途中で変わり、積み方が3つに分かれています。下層は堂々川砂留群では三番・五番・六番と同様で、1つの大きな石で一段とし、階段状に積んでいます。この形式を「鑑積み」と言います。一方で中層は階段状ではなく、比較的小さい石を積み重ねて壁のように積んでいます。上層も同様ですが、中層よりもさらに小さい石が使われています。ではなぜ積み方が変わるのでしょうか？

砂留は先ほども記述した通り、土砂を堰き止めます。その結果、石積みの後ろに土砂が溜まって、一杯になってしまいます。そうすると、砂を堰き止める役割を果たせなくなってしまう可能性があります。それを防ぐために、これまでの石積みの上に石を積んで、高くし、土砂を堰き止めることができるようにしたのです。堂々川一番砂留が3つの層に別れているのも、おそらくこの理由だと考えられます。つまり、一つの砂留でも、それぞれの石積みは積み上げられた時代が異なっているのです。

では、他の砂留はどうでしょうか？右の写真は堂々川五番砂留です。この写真をよく見てみてください。先ほどと同様、途中まで階段状ですが、途中で積み方が変わっています。これも土砂が一杯になった結果、石積みを高くしていったため、それぞれ積み上げた時によって積み方が異なっています。

このように、先人たちが土砂災害と闘ってきた結果、今のように大きな砂留がみられるのです。他の多くの砂留でもこのような痕跡がみられるので、見学する際には石積み方法に注目してはいかがでしょうか？

